

お思ひなきてさうむおかたのうちのこゝろとまゝの

又

いとよく志つるを我恋まきまを道よりそ運ぶ

かゝるをとも志すはさあ多運ハまよ

古れとわくくわい何鳥いつ運れまよ志ぬらん

返一

かゝるを志ふるまよとハ何鳥道若かゝるにおかえ

又

お月雨おまよとぬと松ふ何鳥おかせ中を

右敷忠御集以古字本并流布之印本校之

檀中御言知忠御集

村との中何秋合小霞

くも此山ありひりま霞年をばてあまつるん

うらむま

我者此梅の枝まかゝる号ハ風ありあふのい若とあ

後

おおれは白く後浪おとて松よちとせけさハんえを

暮春

花をゆもちと別る物あゝハあふを日あ形か

恋

今少くも志をせしむる如く建ぬる事こそありけり
河津事絶てしなくハ申くハ人をも身をも恨ま
兼後院は時々の宮は此れは地乃は風上柳

青柳の系はけし之あやなまきや少しとけて今ハむはぬ
橋乃花を人みる

心と花小をくまてせは海系ハ駒まあやをさそは
なつてこり花を人としてあそぶ

初花を分てそ志のへ白雲はまきてはをるなつてこの花
女席花

花小はけしきハハ女席花好ハ海とまらるるさかき

八月十五日

秋霧八月ありあるもふにハ山乃を成さかきあん
細代

とみち葉の形も底を尋ても山乃を成に我ハ
村乃は時秋宮くまの修ハ長奉送使きて

乃のてゆると
兼代乃くももを新重今行末ハ神を也人

権中納言のむとの家よ

春羽川身をハき紀ハえあるも君やに海さる志
みち乃國のかきあつてはさくせんあふ

別るも海はほ板の園路を志すぬも海と八は
行くも神を志すぬあやしく別とす八を海と八は
きりふりしとよの曉よあへりし

と縁もにせるといふは打けてみえや志ぬ心願の志
同一人

古は板とい出さや海はほとるるふなはたの志すも
かへり

あう進ては名は社もなれ海はほあをほりやと
又同一人

如事とるる名は社ほもつるあ進もあひつる事は
絶は信り

又

池名はひ出る事はほとる八みこすの形も
世中たささうりたあり

人乃世は花をそそり世海はあふりしと
あへり

公ふも海をそりる命をたためはたあへぬよ
あへりしとくあへり

いしはは海うら白浪はあふりしとあへり
あへり

何ふも神あぬといふるはあへりしとあへり

養正禮義集

二十三

そのの抱をうちあ人若は布ひはさしてきり熱
そめあめおにささるけたるよれあぬむむか
はさきある

あまはあつり見るとれあもあまにのあもあまのあ
あま

あまあつり思ひよとてかあああてあやああ
女はあつりあ

白浪のま出るえ海若の瀬子ああやあ海ああ人あ
内侍督ああああああああああ

よあああああああああああああああああああ

あ武命あつりあはああああああああああ

雲あああああああああああああああああああ
かくてああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああ

あああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああ

思ひああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああ

あああああああああああああああああああ

七月七日

七夕はあまをこころもあまをこころも遠くへ今も昔もあまを
本院侍後めのみちと秘するをまじりて

よきおのへりてをまじりてあまをこころもあまをこころも
うちり女房よ

知人かみよもほし思あるをわうちれうちれうちれうち
かえやる文をまじりてあまをこころもあまをこころも

道志ぬおちうちれうちれうちれうちれうちれうちれうち
返一

あまをこころもあまをこころもあまをこころもあまをこころも

本院侍後めのみちと秘するをまじりて

あまをこころもあまをこころもあまをこころもあまをこころも
返一

かこぬまこころもあまをこころもあまをこころもあまをこころも
本院侍後めのみちと秘するをまじりて

あまをこころもあまをこころもあまをこころもあまをこころも
かこぬまこころもあまをこころもあまをこころもあまをこころも

あまをこころもあまをこころもあまをこころもあまをこころも
返一

あまをこころもあまをこころもあまをこころもあまをこころも

きよ

河津松よのまの白家ハ之ノ地帯に法を志ぬ人
右近よとくえく

よと河津ハおろる若菜根をシ絶縁ハそこも
あ

目一介

山城乃うまははくハみゆまはむおたさくわ

中將少く女と名をわは中細云とつふ人ハ

とあるに君とやと好んぬ運衣とつ好ま名をハ我の馬

少將よと駒む人ハ中院女御殿のおま人を

おとせと申御前まらる人ハわするふよあて

皇月武御前とる秋乃想ハ先ある縁よとのよ

か武

河津は秋乃とつあはつる思ハぬよ入人とも

女

富士は縁を若くを今つる思ハる御前

返

若くは思ハる富士は縁もとつるをハ煙草人

女義人老人とつあはつるに

別ち縁惜む人ハ縁切は返まうハち思ハる

きよこのみよとつあはつるに好古宰相

後がとつかてハ思を海さうとさふ人あるや又やとあふ
そく

あふも思をワの地うとわお好後ちほまふ身あふ
むま子にむえらまてのりあんと車あふ
をくら地に外よとあてふとあふ

天方をあらる海をこふゆとれ海にたはるる海
権大納言ふと後よかうかうと一たはて四ふと

り

ワもこの福やまははの苗園系社あはれは
六なりあかまはくくふ母君のほとよ

あふのふや海之まわ知はつと知方社をほけ

そく大将

人志事しちとつる知家にあやしくそくは
いほはくはく社古をあらるふよ知事にはるる

そく

人志事ぬ好方下等とさうまふと身もふとあふ
家社にあらる

右朝忠卿集以古字ニが校之